

“高架下まちづくり”とは.....

現在工事中の西鉄高架事業は、平成 33 年度に完了予定です。

全国の事例では、おしゃれなショップが立ち並ぶ商業施設やイベントスペースが整備されるなど、高架事業により創出される高架下空間の活用はまちづくりの一環として注目を浴びています。

大野城市では、「しみん会議」を通して、みなさまの声を聞かせていただき、計画を策定していきたいと考えています。

第6回ワークショップ

テーマ：高架下まちづくり計画素案の確認

日時：平成 27 年 12 月 12 日（土）9:00～12:00

場所：大野城市役所 311・312 会議室

第6回しみん会議では、これまでいただいた意見等をまとめた計画素案について事務局から説明を行い、その内容についてグループワークで良い点や工夫が必要な点など意見交換を行いました。グループワークは、春日原・白木原・下大利の3グループに分かれて行いました。

第6回プログラム

09:00	受付
09:15	開会あいさつ 参加者紹介
09:30	高架下まちづくり 計画素案の説明
10:00	ワーク： 計画素案についての意見交換
11:00	発表と意見交換
11:55	事務連絡等
12:00	閉会

●次回の予定

第7回しみん会議

【日時】平成 28 年 2 月 20 日（土）

時間：10 時～12 時

【場所】大野城市役所

◆テーマ：高架下まちづくり計画素案の報告

●しみん会議のスケジュール

第4回 平成 27 年 6 月 20 日（土）

テーマ：高架下空間を利用した将来のまちづくり計画を考えよう！1

終了！

第5回 平成 27 年 8 月 8 日（土）

テーマ：高架下空間を利用した将来のまちづくり計画を考えよう！2

終了！

第6回 平成 27 年 12 月 12 日（土）

テーマ：高架下まちづくり計画素案の確認

終了！

第7回 平成 28 年 2 月 20 日（土）

テーマ：高架下まちづくり計画素案の報告

●高架下まちづくり計画素案について

今回提示している計画素案は、これまでの「しみん会議」から出た意見を踏まえながら、西鉄や福岡県といった関係者による「デザイン会議」や行政の関係部署で構成する「職員会議」、学識経験者や地域の代表などからなる「まちづくり会議」にて協議を重ね、まとめたものです。素案の一部を2～7ページに掲載しています。

この素案で示している図面等は、イメージ化したものであり、確定したものではありません。

計画素案の内容

※これらは市民意見を反映し、イメージ化した図面であり、確定したものではありません。

第6回しみん会議（2015.12.12）配布資料

●春日原周辺～白木原

春日原駅北側は、福岡市側からの連続した歩行空間のつながりを保ち、四季の移ろいを感じながら歩くことができる空間とします。駅に近づくにつれ、にぎわいが感じられる空間へと移行していきます。側道については、現在の一方通行の規制を継続しつつ、鉄道側に安全に歩けることができる歩行空間を設け、緑のうらおいが感じられるように植樹や足元緑化を行います。

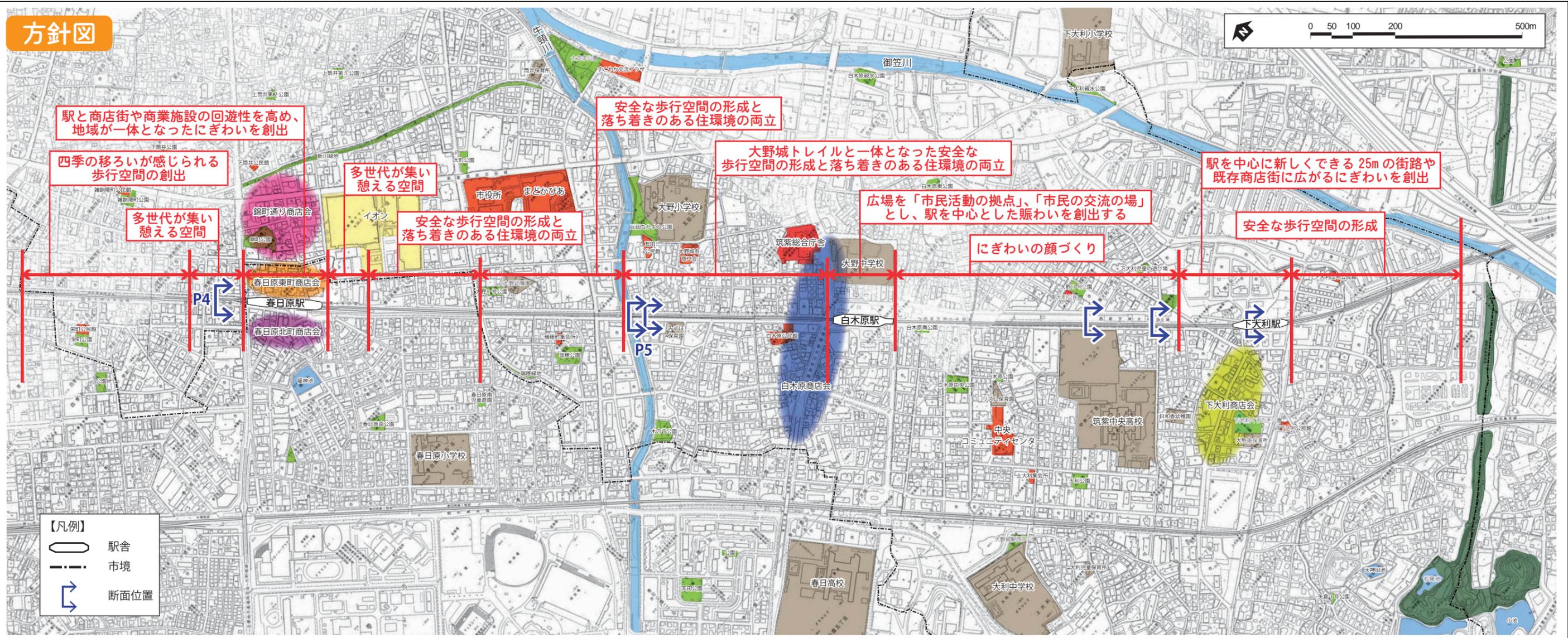
牛頸川周辺は、既設の鉄道用橋梁をオープンスペースとして活用し、地域住民や大野城トレイル利用者が憩える空間とします。春日市との市境（春日原2号踏切）から白木原駅までの区間における側道については、安全な歩行空間を確保するため、将来的に一方通行への変更を図るものとします。

●白木原～下大利

白木原駅～下大利駅周辺区間では、高架東側の街路事業により、高架下空間に並走して幅員約14mの歩道が整備され、高架下空間と歩道を一体的に活用することができます。ここでは、にぎわいの顔づくりをコンセプトとして、1つのテーマを持ち楽しみながら歩ける空間を創出していきます。この区間では、①核となるテナントを中心としてオープンスペースや店舗等がセットになった案、②オープンスペースを中心に教育・交流等支援施設や店舗が隣接する案、③飲食や物販などの店舗が並ぶ案、の3つの施設配置ユニット案が考えられ、それぞれを高架下に配置するイメージである。（7ページ参照）

また、駅から駅まで雨に濡れずに歩けるように歩道の一部に屋根を設置し、下大利駅においては、雨に濡れずに駅とバスを繋ぐような屋根を設置する。

方針図



●主要断面図

主要断面図は、これまで検討してきた計画対象範囲の中で、主要な5つの空間の断面イメージで、天神方面を背に大牟田方面を見た図面です。各断面の位置は、2～3ページの方針図で示しています。

また、各断面図において、空間のコンセプトや方針、高架下空間に配置する機能のイメージ等を記載しています。これまでの「しみん会議」の意見等を基にまとめたもので、各項目の説明は、以下のとおりです。

<コンセプト>

計画対象範囲において、第2回しみん会議で定めた全体ゾーニングの空間を詳細な11のゾーンに分け、そのゾーン空間におけるコンセプトを定めました。

なお、2～3ページの方針図中の赤字で示す内容と同じものです。

<方針>

詳細なゾーンで定めたコンセプトを踏まえ、どんな空間づくりにしていくのかという方向性・考え方を示したものです。

<施設配置の考え方>

高架下の空間づくりをする中で、どのような施設の配置がよいのかという考え方を示したものです。

<条件>

これまでのしみん会議やヒアリングなどの市民意見、市が打ち出している施策方針、また、計画対象範囲における立地特性といった条件を整理し、示したものです。

<機能配置のイメージ>

コンセプトや方針、施設配置の考え方、条件等を踏まえ、高架下空間で考えられる機能配置のイメージを示したものです。

<側道の考え方>

沿道において、歩行者にとって安全で安心な歩行空間の実現に向けた側道の考え方を示したものです。

■ 牛頭川～白木原（オープンスペース・施設等）【案】

<コンセプト>

大野城トレイルと一体となった安全な歩行空間の形成と落ち着いたある住環境の両立

<方針>

牛頭川で交差する大野城トレイルの拠点となる空間づくり

●施設配置の考え方

- ・大野城トレイルの交差点における交流の場や憩い・活動の場を確保する
- ・東西の見通しを確保する

条件

<立地特性>

牛頭川や春日原方面から水城跡につながる大野城トレイルが通り、歩く、回遊するという行為を支える重要な空間となっている。周辺地域は閑静な住宅街であるが、側道の歩道が整備されておらず、歩行者の安全確保が必要である。

<市の施策方針>

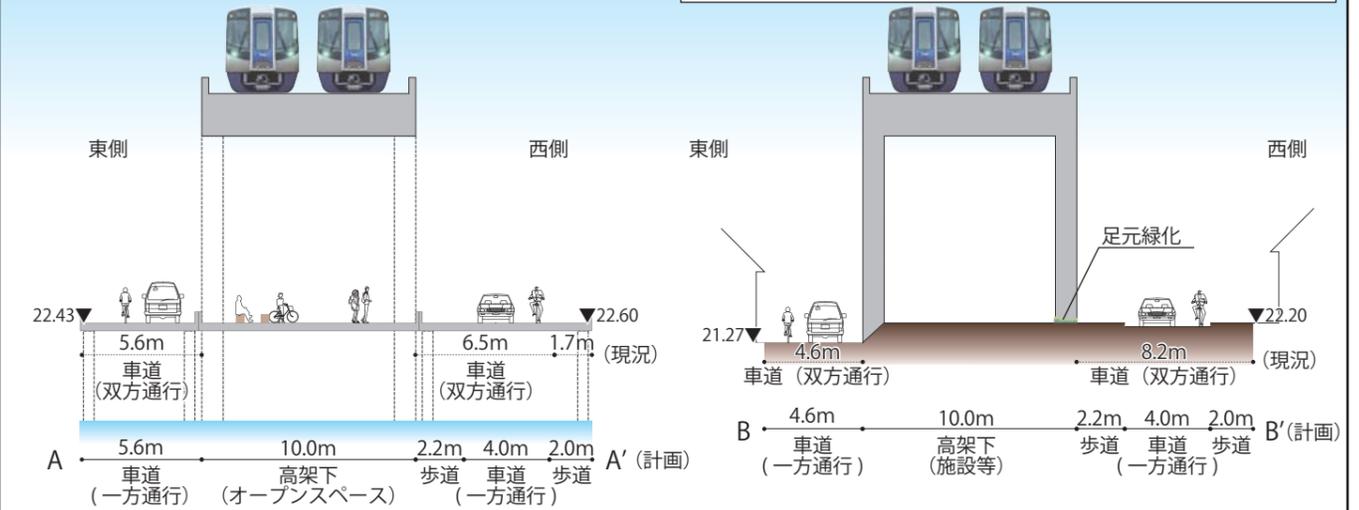
- ・高質な歩行空間、ネットワークの確保
- ・オープンスペースの確保

<機能配置のイメージ>

- ・大野城トレイルの利用者や散歩している人などが休憩できる**オープンスペース**を設置。
- ・オープンスペースで休憩している人が利用する**店舗等**を設置。
- ・牛頭川を起点に大野城トレイルを歩く人や周辺にある保育所・幼稚園の送迎に利用できる**駐車場**を設置。
- ・牛頭川を基点に大野城トレイルを歩く人等が利用する**駐輪場**を設置。

側道の考え方

- ・歩行空間を確保するために東西の側道を双方通行から一方通行へ。



■ 春日原駅北側（テナント）【案】

<コンセプト>

四季の移ろいが感じられる歩行空間の創出から駅周辺においては多世代が集い憩える空間へと変わる

<方針>

地域住民で賑わう空間づくり

●施設配置の考え方

- ・地域住民が日常的に利用する施設を配置
- ・東西の見通しを確保する

条件

<市民意見>

住宅地に隣接していることから、地域住民のための活用が求められている。また、雨にぬれずに遊べる空間がニーズとしてある。

<立地特性>

駅近くは大通りがありにぎわいがあるが、駅から少し離れると閑静な住宅街となっている。また、周辺は公園が少ない。

<市の施策方針>

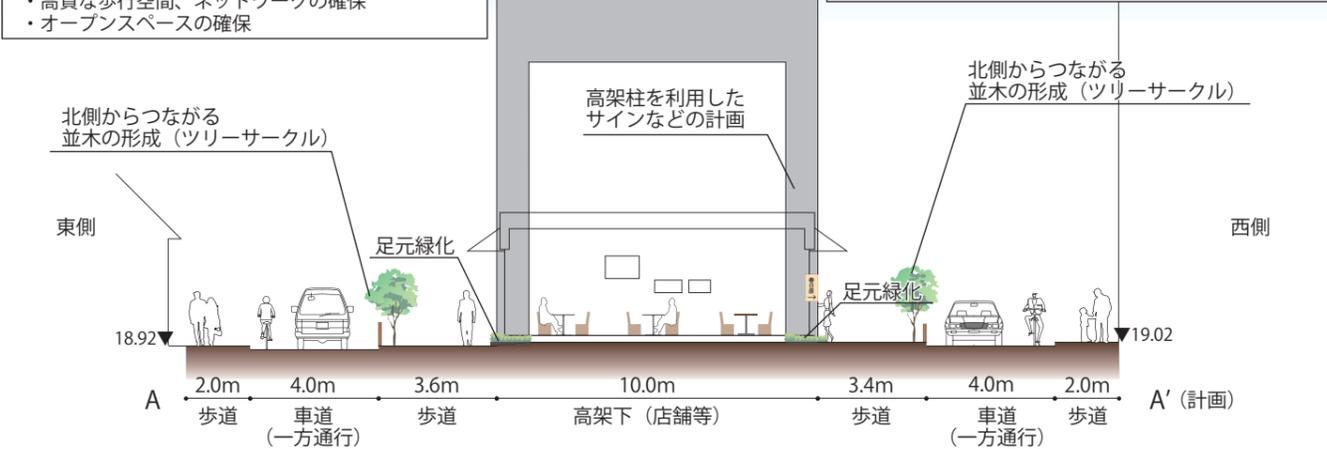
- ・高質な歩行空間、ネットワークの確保
- ・オープンスペースの確保

<機能配置のイメージ>

- ・雨の日でも濡れずに遊べる**公園・オープンスペース**。
- ・福岡市から太宰府市を含めた広域観光にも利用できる**サイクルステーション**。
- ・オープンスペース利用者や地域住民等が立ち寄りやすい**カフェ**。
- ・オープンスペースやカフェ利用のための**駐車場**。
- ・電車で通勤する人や地域住民等が利用できる**保育所**。

側道の考え方

- ・現状維持とし、東西両方向とも一方通行とする。



■ 白木原～下大利（オープンスペース）【案】

<コンセプト>

にぎわいの顔づくり

<方針>

交流拠点のある空間づくり

●施設配置の考え方

- ・高架下空間と東側の側道を一体的に活用し、にぎわいを創出する
- ・外部からの集客を見込むための集客施設が必要
- ・集客施設の近くにイベントスペースや店舗を配置し、連動したにぎわいの創出を図る

条件

<市民意見>

1つのテーマ性を持ち、歩くのが楽しくなる空間やイベントスペースや店舗等が配置され、多世代によるにぎわいの創出が求められている。また、安全・安心な生活環境の空間として、にぎわいの中に交番が望まれている。

<立地特性>

高架下空間の東側に幅員約10mの歩道が整備され、高架下空間との一体的な利用も含めた様々な空間活用の検討が可能である。

<市の施策方針>

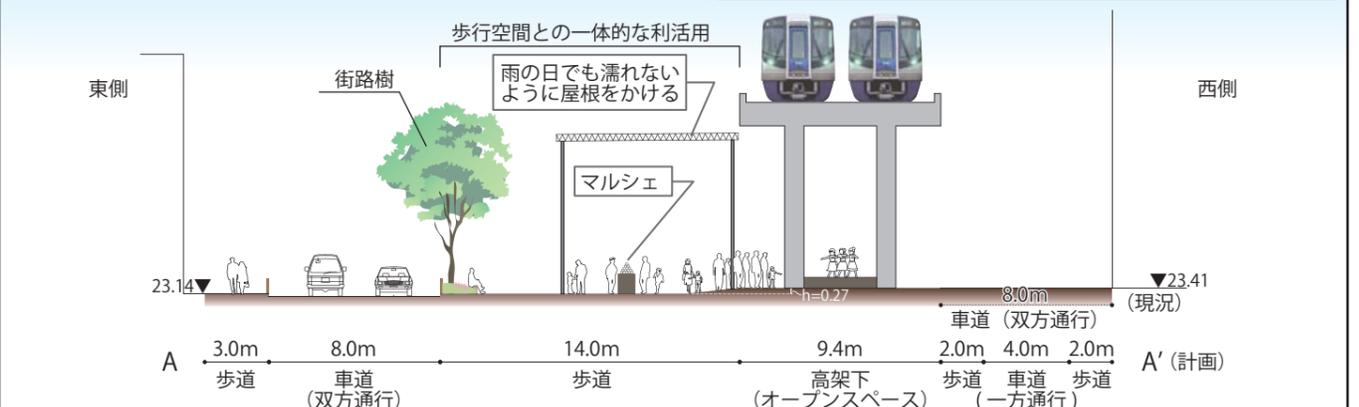
- ・中心市街地のにぎわい創出
- ・駅周辺の駐輪場確保

<機能配置のイメージ>

- ・地域のイベントやフリーマーケット等の催事に利用できる**オープンスペース**の設置。
- ・オープンスペースで遊ぶ子どもを眺めながらゆっくりしたり、イベント時は休憩に利用できる**飲食店（カフェ等）**をオープンスペースに隣接して設置。
- ・オープンスペースや店舗の利用者のための**駐輪場・駐車場**を設置。
- ・勉強や託児、習い事など、地域の学生や住民などいろいろな人が利用出来る**教育・交流等支援施設**の設置。

側道の考え方

- ・歩行空間を確保するために西側の側道を双方通行から一方通行へ。



■ 白木原～下大和 (テナント)【案】

〈コンセプト〉
にぎわいの顔づくり

〈方針〉
公園と一体的に利用できる空間づくり

●施設配置の考え方

- 高架下空間と東側の側道を一体的に活用し、にぎわいを創出する
- 外部からの集客を見込むための集客施設が必要
- 集客施設の近くにイベントスペースや店舗を配置し、連動したにぎわいの創出を図る

条件

〈市民意見〉
1つのテーマ性を持ち、歩くのが楽しくなる空間やイベントスペースや店舗等が配置され、多世代によるにぎわいの創出が求められている。また、安全・安心な生活環境の空間として、にぎわいの中に交番が望まれている。

〈立地特性〉
高架下空間の東側に幅員約10mの歩道が整備され、高架下空間との一体的な利用も含めた様々な空間活用の検討が可能である。

〈市の施策方針〉

- 中心市街地のにぎわい創出
- 駅周辺の駐輪場確保

〈機能配置のイメージ〉

- 公園と合わせて利用できるような**飲食店、物販店**の設置。
- 店舗や公園の利用者のための**駐輪場・駐車場**を設置。

側道の考え方

- 歩行空間を確保するために西側の側道を双方通行から一方通行へ。

■ 下大和駅周辺【案】

〈コンセプト〉
駅を中心に新しくできる幅員25mの街路や既存商店街に広がるにぎわいを創出

〈方針〉
駅を中心としたにぎわい空間づくり

●施設配置の考え方

- 駅の利便性の向上

条件

〈市民意見〉
駅周辺は店舗を配置し、にぎわいの創出が望まれている。

〈立地特性〉
下大和駅から白木原駅の間は「大野城市の顔」として新しい空間が整備され、また、高架後は下大和駅から水城跡や御笠川へ歩行者専用道路が整備され、アクセスがしやすくなるので、上手く連携できれば、下大和駅を利用する来訪者の増加が見込まれる。

〈市の施策方針〉

- 中心市街地のにぎわい創出
- 駅周辺の駐輪場確保

〈機能配置のイメージ〉

- 地域住民や駅利用者が利用する**飲食店(カフェ等)**の設置。
- 駅利用者や地域住民が習い事等ができるような**フリースペース**の設置。

駅舎と歩行空間との一体的な活用

雨の日でも濡れないように屋根をかける

●施設配置ユニット (案)

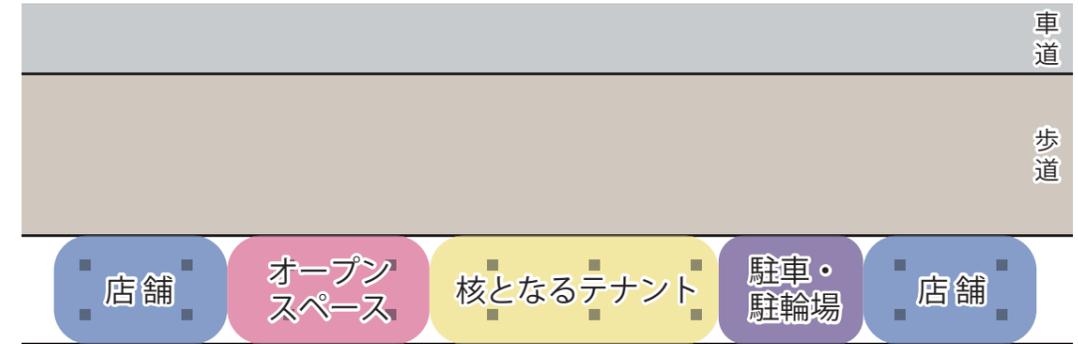
高架下空間活用として、隣接あるいは同じ区画内の複数の施設が連動できるように施設を組み合わせることで効果的です。

これまでの皆様の意見等を基に、「にぎわいの顔」となる白木原駅～下大和駅間における施設配置について、3パターンのユニット(案)を検討しました。

■ 施設配置におけるユニットイメージ (案)

以下は、高架下空間への施設配置におけるユニットイメージである。

①核となるテナントを配置した場合のユニットイメージ



②オープンスペースを配置した場合のユニットイメージ



③店舗を配置した場合のユニットイメージ



●グループワークでの意見

<春日原>

- ・雑餉隈9号踏切の北側から階段を上がり、直接駅の改札とつながる連絡通路を設置してほしい。
- ・駅の近くに無料の駐輪場を整備してほしい。
- ・おしゃれなお店やくつろげるお店がほしい。
- ・牛頸川のオープンスペースは、日常は公園的な利用ができ、週末はイベントができるような整備がよい。
- ・より住民のためになる場所にしてほしい。
- ・緑地空間（地域の花など）を核として、サイクルステーションを付随させる。



<白木原>

- ・歩行者と自転車がそれぞれ安全に通れるような整備にしてほしい。
- ・高架下空間に交番を設置してほしい。
- ・パチンコやゲームセンター等の騒音となりそうな施設は高架下に入ってほしくない。
- ・駅前広場には駐輪場、イベントスペース、休憩スペースの3つの機能を配置し、イベントスペースは今よりも広くしてほしい。
- ・核となるテナントについては、大手ではなく地場を基本とする。
- ・学校もたくさんあるので子どもからお年寄りまで集まるオープンスペースにしてほしい。
- ・週替わりなどでユニットイメージが変えられるとよい。



<下大利>

- ・水城跡等の施設や大野城トレイルと連携し、歩いたり自転車で、より広域にネットワークを広げていく。
- ・もう一度コンセプトに立ち返り、「水」をテーマに潤いのある空間をつくる。
- ・週末だけにぎわうイメージに見えるので、平日のにぎわいをきちんと考える。
- ・高齢者が出かけたくなる場所にしてほしい。
- ・教育・交流等支援施設では九大生が地域の子どものに教えるなどしてほしい。
- ・空き家活用で駐車場を設ける。駐車場の位置に関してはマップで周知する。



●第6回 しみん会議参加者アンケートより（一部抜粋）

- ・休日だけでなく、平日の地域住民のにぎわいも大切にすべきだということに気づかされた。
- ・西鉄さんもこの会議に直接参加してほしいです。
- ・今回は交換よりも、他の方の意見を聞くことが多かったのですが、とてもすばらしい内容でしたので、とても意義のある時間となりました。もっと時間がたくさんあり、一人一人の意見をもっと深掘できるといいな、と思いました。
- ・まだまだ市民の参加が足りてません。
- ・西鉄側も入れたワークショップ・会議を開いて（早期に）開催して欲しい。
- ・やはり、ご年配の方の参加が多かった気がする。地域に根差した部分が大いだが、もっと若い世代も招集して話し合いができたら良いと思った。